

令和7年度 第1回和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会 議事録

- 1 開催日時 令和7年7月17日(木) 10時00分～12時10分
- 2 開催場所 和知ふれあいセンター 2階 研修室1・2
- 3 出席者 (1) 構成員 10名
松本和久教育長、井戸仁委員、河谷尚都委員、原田美希委員、
才村路子委員、大田有次委員、春田貢委員、早川公雄委員、
川中愛映委員、森瀧ひろ香委員
(2) 事務局 6名
・教育委員会
岡本教育次長、四方学校教育課長、長尾総括指導主事、
野口学校教育係長
・和知小学校
梅原校長
・和知中学校
船越校長
(3) 説明者 1名
・教育委員会
東指導主事
- 4 傍聴者 2名
- 5 会議の概要
 - (1) 委嘱状交付
松本教育長から委員一人ひとりに委員の自席にて交付を行った。
 - (2) 開会あいさつ
【教育長】本日は和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会の委員を委嘱させていただきましたところ皆様快くお引き受けいただき、今日こうして会議にご出席いただきましたこと改めてお礼申し上げます。
詳しい経過等については、後ほど諮問書の中で、あるいは諮問書の補足説明の中で詳しく説明させていただきます。今年の2月に京丹波町の総合教育会議、これは京丹波町の学校教育の意思決定機関であり、町長と教育委員で構成する会議であります。その場でこの検討委員会の設置を

決定いたしました。それを受けて皆様方に委員としてお世話になったということですので。

当然、京丹波町の和知地区の小中学校のあり方に関わっての検討ということで小中学校（PTA）の代表、和知地区区長会の代表、和知地区学校協働活動（うらら会）の代表、京丹波町民芸保存会の代表、そして今回は、和知地区の小中学校のあり方ではありますが、広く京丹波町の皆様の御意見を反映させるべく、委員の公募をさせていただきました。それに3名の方が応募をいただき、3名の方を公募委員としてお世話になった次第でございます。

小中学校のあり方に直接関わっていただく、そしてまた、京丹波町の学校のありようを広い立場で見えていただきたい。こうした皆様の意見を元に今後の和知地区における小中学校のあり方を是非とも様々な視点でご検討いただき、町長と教育委員会に諮問に対する皆様方の答申をいただけたらありがたく存じます。

この学校のあり方を検討する背景は、いうまでもなく日本で急速に進行している少子化が背景にあることは皆様もご承知のとおりであります。1970年代、この時の出生数が200万人台、これが第2次ベビーブームと呼ばれています。それ以降は急速に少子化が進行し、昨年の全国の出生数は遂に70万人を割り込んで68万人台になったとニュースで報じられておりました。第2次ベビーブームから出生数が三分の一になったということです。当然、そうした少子化の影響を最も直接的に受けているのが小中学校のあり方であります。

従いまして、平成の中頃に国は小中学校の望ましい設置基準というもの定めています。学校教育法施行規則というもので小学校では12学級から18学級が望ましい標準学級数というように謳っています。小学校で12学級ということは6学年ですから1学年で2クラス以上かつ18学級ですから3クラス以下が国が定めています法令という標準規模であります。この標準に従って平成の過渡期に全国的に学校の統廃合が進展します。それ以降、その後どうなったかと言いますとさらに人口減少と少子化が進行しておりまして、全国の多くの学校でその標準と定めている小学校いう12学級を下回る学校が実は続出しました。このことを受けて、国は平成26年に当時の内閣が地方創生を掲げました。その地方創生の動きの中でこれまで定めておりました学校の適正規模、適正配置に関する文部科学省の手引きを改定いたしました。標準の規模はそのままにしつつではありますが、その手引きの副題として少子化の中で活力ある学校をどのように作るかというようなことが副題で作られています。そして、標準の規模は変えておりませんが、それぞれの地域の実情に沿った学校のあり方をそれぞれの設置者である市町村で検討する必要がある

ると国も地方創生の中で立ち位置を変えています。

私、一昨年、京都府の市町村教育委員会連合会の代表をしておりました。当然、全国のいろんな代表と会議、研修会で出会うことになりました。全国の市町村の悩みは同じでした。かつて統廃合をした学校が統廃合した結果、すでにまた標準の規模でない状況である。これを受けてどうするのか、特に京丹波町のように町村と呼ばれている人口規模が比較的小さい町村では、1つの町に1小学校、1中学校というのが増えました。1小学校、1中学校がこれ以上適正規模化を図るとすれば、町村を超えて隣の町や隣の市と一緒に学校を作るのか。そんなことを検討せざる得ない状況になっている。しかし、それは物理的に無理がある。小学校の場合、広域で統合した結果、随分広い範囲の通学区域の中で登校している。それでもまた隣の町や市へというのは物理的に無理がある。このように、今後の学校のありようは、これまで国が定めてきた考え方では到底できない。ということはこれまでとは違った柔軟な考え方による学校のあり方を検討する必要があるというのが、今、多くの市町村の教育委員会の共通的な悩みとなっています。

そういうことを背景に本町でも実は同じ課題があります。それが今回のこの和知地区における小規模学校あり方について検討いただくということであります。国が定めています様々な規定に基づく考え方と実情との間には大きな乖離があるということ。その中でこの特に和知という地域においてどのような学校のあり方がこの地域の子どもたちの学びをしっかりと保証し、かつこの地域のありようとどのように関わるのか。そうしたことを是非とも皆様方、任期は今年度の3月31日までとしておりますので、少し長丁場になりますがそれぞれのお立場から御意見を出していただいて、この和知における今後の小中学校のあり方の望ましい姿について是非とも皆様の答申をいただけたらと思っております。お世話になりますどうぞよろしくお願いいたします。

(3) 自己紹介

(4) 会長・副会長の選出

設置要綱第4条の規定に基づき、互選により選出。

立候補がなかったため、事務局の提案により、会長：井戸仁氏、副会長：大田有次氏に決定。

(5) 会長就任あいさつ

【会長】和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会ということで、この委員会はこういったものかということについては、先ほど設置要綱があり

ましたので、また目を通さなければならないなと思っておりますが、先ほど、教育長様からいろいろお話をいただきましたように和知地区、日本全国ということになるかと思うんですが、非常に大きな課題を抱えております。少子化という波は非常に大きな波で、この京丹波町においてもこれからどのようにしてあり方を考えていくのかということは何もすごく重要なことになってくると思います。皆様にも様々なご意見を伺いながら教育長からこれから諮問されることを受けまして、我々が答申を出していくとそういった形になっていくかと思っておりますので、1つどうぞよろしくお願いいたします。

(6) 諮問

松本教育長に諮問内容を朗読いただき、委員会を代表し、井戸会長へ諮問書の手渡しを行った。

(7) 議事事項

ア 検討に至ったこれまでの経緯について

資料－1 ①～③について、事務局から説明を行った。(岡本教育次長説明)

資料－1 ①「和知小学校学校運営協議会上申書」

資料－1 ②「和知中学校学校運営協議会上申書」

資料－1 ③「令和6年度第1回京丹波町総合教育会議 議事録」

イ 委員会のスケジュール

資料－2について、事務局から説明を行った。(四方学校教育課長説明)

資料－2「和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会 スケジュール(案)」

ウ 京丹波町と和知地区の出生数及び児童生徒数の推移について

資料－3について、事務局から説明を行った。(四方学校教育課長説明)

資料－3「京丹波町の出生数及び児童生徒数の推移について」

資料－3「和知地区の出生数及び児童生徒数の推移について」

エ 和知地区の小中連携の取組内容について

資料－4について、事務局から説明を行った。(和知小学校梅原校長説明)

資料－4「和知小学校・和知中学校の連携教育について」

オ 和知地区の小中学校のあり方の検討について

資料－5 ①～③について、事務局から説明を行った。

資料－5 ①「小中一貫教育制度について」(野口学校教育係長説明)

資料－5 ②「バス通学の現状等について」(四方学校教育課長説明)

資料－５③「京丹波町中学校の部活動について〈拠点校部活の導入〉」
(東指導主事説明)

カ 意見交換

出席の委員の皆様から、本日の委員会の説明を受けてと次回の委員会に向けて意見を賜りました。概要は以下のとおり。

【委員】私事かもしれませんが、娘が中学生の頃、思春期で大変だった経験があります。今日、楽しそうな小中学生の活動を拝見し、もしその場に娘が参加していたら、どのように感じるのだろうかと少し不思議に思いました。しかし、資料を見ていくうちに、それはそれでとても楽しいことなのだろうなと感じました。

もし可能であれば、ネットで調べたところ、すでに全国で約300校の小中一貫教育を行っている学校があることがわかりました。そうした学校に通う子どもたちの意見をまとめた資料があれば、子どもたち自身がどのように感じているのか、小学生の意見も大事ですが、特に中学1年生、2年生、3年生、卒業までの間にどのように思ったのかといった意見が参考になると思います。そういった声が、今後の教育や支援の後ろ盾になるのではないかと考えました。

【委員】いろいろな話を聞かせていただきながら、私なりに頭を整理しています。今の現状について理解が深まると同時に、ふと二つの疑問が浮かびました。

一つ目は、私たちがこの場で議論している中で、子どもたちがどのように育ってほしいのかという点が、最も重要な上位目標、つまり一番大きな目的ではないかということです。これから先、人口減少や食料自給率の低下、環境問題の深刻化など、予測できない課題に直面しながら大人になっていく子どもたちが、その課題に立ち向かっていく存在になるわけです。したがって、子どもたちがどのように育つべきか、そのために学校はどのような役割を果たすべきかについて、皆さんと一緒に議論したいと思います。皆さんが同じ方向を向き、「こういう子どもを育てたい」「和知にはこういう地域の教育資源がある」といった共通認識を持つことで、意見も出しやすくなり、議論のまとめもスムーズになるのではないかと考えています。

二つ目は、こうした議論を進める上で、私たち自身も今の社会の動向を理解しておく必要があるという点です。特に、AIの登場やChatGPTのようなツールの普及により、働き方や仕事の進め方が大きく変わりつつあります。私も仕事でChatGPTを活用せざるを得ませんし、議事録の作成なども自動化されてきています。こうした変化を知識として理

解しておくことは、今後の働き方や社会の動きに対応していく上で重要だと感じています。

最後に、京丹波町自身がどのような未来を見据えているのか、また、京丹波町の中にある和知地区が今後どう進んでいくべきかについて、点と点をつなぎ合わせる必要があると感じました。そのため、そういった周囲の資料や情報を知りたいと思います。

【委員】連携教育報告会において、小中一貫校や小中連携に関するお話をいただきました。和知の保護者の方々は、今後、小中一貫校になるのだろうとお考えの方が多いいと思います。もちろん、反対意見もあるかと思いますが、その上で、どのような小中一貫のあり方が望ましいのかについて、委員会で議論していく必要があると考えています。ただし、現時点では資料が十分に揃っていないのが実情です。例えば、身近な事例として、亀岡の育親学園や、綾部の小中一貫校の実績や成果についての資料があれば、ご提供いただくと助かります。

また、小中一貫校については、私自身、京都市内から移住してきましたが、以前有名だったのは御所南小学校です。そこは全国から教育熱心な保護者が移住してこられると聞いたことがあります。御所南小学校は、京都御池中学校、そして将来的には堀川高校や京都大学といったエリートコースを目指す小中一貫校として認識されています。ただし、和知小学校・中学校のあり方については、これらと同じタイプの小中一貫校とは異なる側面があると私は考えています。実際、御所南小学校から京都御池中学校、高校、大学へと進学したとしても、そこから地元に残る方はどれだけいるのかという点も気になるところです。和知の小中一貫校のあり方を考える際には、地元に残ってほしいという保護者の思いを大切にしながら、地域の特性やニーズに合った形を模索する必要があると感じています。そのため、他の学校とは異なる視点や考え方も取り入れる必要があると思います。

【委員】僕は二点ほど申し上げたいことがあります。まず一つは、今後、小中一貫校に向かって進めていくことはもちろん重要ですが、その前に保護者に対して十分な資料提供を行い、お互いに話し合いながら進めていくべきだと、校長先生とも話していました。本日の資料の中で「保護者との連携」と挙げていただいていることもあり、その点をしっかりと取り組む必要があると感じました。

私自身も子どもが卒業してからしばらく経ちますが、人形浄瑠璃や地域教育協議会のメンバーとして参加させていただいています。そのため、スタッフの皆さんとお話しする機会も多く、さまざまな思いや意見をその都度伝えていきたいと考えています。

次に、もう一つの点ですが、一昨日のことです。火曜日に中学校で人形の

練習があり、見学させていただきました。その日の新聞の朝刊には、和知の生徒が陸上競技の四種競技で優勝したと掲載されていました。

人形浄瑠璃の練習で皆さんが揃った際に、私がたまたま「優勝したのか」と尋ねたところ、子どもたちも喜んでくれている様子でした。学校でもこの成果をもっと宣伝したり、PRしたりすることは、良いフォローになると考えます。

最後に、私の個人的なことで申し訳ないんですが、私には三人の子どもがおり、全国大会にも出場させてもらった経験があります。その際、子どもたちを褒めてやると、次の記録が飛躍的に良くなることもありました。ですので、こうしたPRや称賛の重要性も非常に大切だと感じています。

【委員】 始まったばかりで、僕自身も頭の中が混乱している部分もありますが、子どもたちが学校での教育や過ごし方をより充実させるにはどうすれば良いかと、保護者の立場としてさまざまなことを考えています。ただ、どのような形になったとしても、私の願いは、子どもが安心して「今日学校に行って楽しかった」と感じられるような教育を受けて帰ってくることです。これは私個人の考えでもあります。

その中で、説明を聞いていて今検討中の段階なので、すぐに答えが出るわけではないと思いますが、気になった点があります。それは、学校の部活動拠点方式についてです。私の理解では、平日は自校で部活動に参加し、土日は他校で好きな部活動を選ぶという仕組みだと受け取っています。しかし、これについてはもう少し改善の余地があるのではないかと感じています。

思春期の子どもたちにとって、部活動は非常に重要な時期に関わるものであり、将来的にも大きな影響を与える部分だと考えています。そのため、保護者の意見も大切ですが、実際に部活動を行うのは子どもたち自身です。子どもたちの意見も反映させるために、アンケートを取るなどの方法も一つの手段ではないかと思いました。

【委員】 今日、説明をしていただき、私自身もこの前から小学校と中学校の合同アンケートや、中学校のアンケート、クラブについてのアンケートを立て続けに行い、頭が混乱しております。

小学校中学校が一緒になった場合、また、中学校が一緒になる場合は、小中全員が先ほどのバスの時間の説明であったように1時間以上かけていく。小さい子どもたちにとっては、現実的ではないのかなと思ったり、これは中学校だけいけるのかなと思ったり、ちょっといろいろ頭が混乱しておりました。

この検討委員会に参加させていただき、今日の説明を受けて、一つ一つの案について、「こちらが良ければこちらに譲る」といった調整や、さまざまな意見が出てくると思います。私が今子育てをしていてよく見ている

のは、「子育てしやすい町 京丹波町」というパンフレットです。そこから、町の方々が本当に子育て支援に力を入れてくださっていることが伝わってきます。ただ、和知地区にとっては、距離の問題や、今年度から中学生の土曜日のバスがなくなったこともあり、さわやかライフさんにお世話になっている状況です。才原方面には3人の該当者がおりますが、私の家庭だけがタクシーを利用している状況です。毎回アンケートで「利用しますか？しませんか？」と回答し、先日も8時半に迎えに来ていただくのに、8時頃にお腹が痛くなるトラブルもありました。でも、頼んでしまった以上、どうしようもなく、そのときはお腹も落ち着き、無事に乗車できましたが。自分自身は、自分で行って帰ってくるのが普通だと思います。都会の子供たちであれば、自転車を使って部活に行くことも普通でしょう。しかし、この地域に住んでいては、送迎の負担を非常に感じています。私だけでなく、義理の両親や母親たちにもお世話になりながら、みんなで送迎をしている状況です。こうした理由から、送迎が一番のネックとなっています。

また、私が中学校のときは42人のクラスメートがいましたが、今残っているのは5、6人、あるいは10人以下です。子供たちが「和知に住みたい」と思うような環境を維持し、不便だからといって出ていくことがないようにしたいと考えています。私自身、手厚い教育を受けてきたと感じており、今の中学校ではマンツーマンに近い指導や塾並みのサポートを受けています。特に中学2年生の7人のクラスは非常に手厚い指導を受けており、大きな学校に進むと物怖じする可能性もありますが、少人数の良さもあります。一人ひとりが役割を担うことができ、私の子どもはもともと引っ込み思案でできない部分もありましたが、「やらなければならない」と責任感を持つことで成長した部分もあります。人数の多い少ないにはさまざまな理由があると思いますが、この検討委員会が良い方向に進むことを願っています。

【委員】私はいもう孫の時代で、お話を聞いておりましたが、和知は本当に手厚い指導をしてくださり、子供たちがお世話になったときも、塾に通わなくてもきちんと大学に進学できました。費用も抑えられ、大学卒業することもできました、大変助かりました。こうした個別指導の行き届いた和知の良さを未来に残していきたいと考えています。小中連携が進んでも、子どもたちが楽しく学びながら学力も伸び、伸び伸びと暮らせる環境づくりに、微力ながらお力になりたいと思っています。

【委員】今日も校長先生方から和知の小学校と中学校の連携の取り組みについてご説明いただきました。一方、私自身は地域教育協議会や学校運営委員会の場で、そのような取り組みを拝見して感じたことがあります。それは、子供たちの数がどんどん減少しており、私たちが過ごした時代とは全く

異なる状況になってきているということです。親の立場からは困ったものだと感じることもありますが、しかしながら、地域の実情や今後の動向に合わせて、新しい教育の形を模索していく必要があると強く感じています。今後も皆さまと一緒に、より良いあり方について検討を重ねていきたいと考えております。

(8) その他・事務連絡・第2回委員会の日程について

次回8月22日(金) 午後7時30分

京丹波町役場本庁舎 1階 防災会議室

(9) 閉会あいさつ

【副会長】 第1回の和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会ということで、長時間にわたりましてお世話になりました。ありがとうございました。

小学校が統合して24年ということですが、その24年前、当時私の長男が和知第3小学校から和知小学校へ移ったというような経過があります。当時、和知には第1小学校、第2小学校、第3小学校と3つの小学校があって、それぞれ地域にとって大事な存在ではありましたが、人数的にも止む無しというところで学校と協議を重ねて統合したのを覚えております。

当時は和知小学校も200人を超える子どもたちがいたわけですが、それも今日お話を聞かせていただいたら70人になっているということで、いよいよまた次のステージへ向かって検討していかないといけない時期に入ったなと思っております。

先ほどお聞きしましたが、ここ数年にわたって小学校、中学校の先生方が中心になっていろんなあり方を試行錯誤されておられますし、去年は運動会についても小中学校合同で頑張ってお手探りの中で開催されたということも身近に見ておりました。

今後の子どもたちのより良い教育を求めて協議を重ねていかなければいけないんですが、今日皆様のご挨拶なりご意見を聞かせていただいて、子どものこれからに対して大変熱い思いを持っておられる皆さんに集まっていたということ非常に頼もしく思っておりますし、また今後のあり方検討会もよろしく願いしまして、本日の閉会のあいさつとさせていただきます。どうもお疲れ様でした。

[閉会：12時10分]